

学術情報センターだより

Library and Information Technology Center, Nagoya Women's University

学術情報センターには 品 夢 希望 そして 生きがいのネットワークがある

荒井 康夫 (文学部長)

本学では、教育・研究支援および情報収集と発信の中核をなすべく、ハイブリッドライブラリーサービス(図書館機能、電子図書館機能)、情報教育・研究サポートサービス(電子化支援機能、学習環境整備・支援機能、教育・研究のためのデータベース利用支援機能)、情報処理システムおよびネットワークシステムサービス(情報教育環境整備機能、電子情報発信支援機能)を統合した、全学共同利用の学術情報センターがスタートし5年が経過しました。

現在の汐路学舎・天白学舎を総合したライブラリーとシステムの概要は、図書所蔵冊数約23万冊、購入雑誌数542誌、閲覧席数368席、検索用PC16台、マルチメディアPC5台、館内貸し出し用ノートPC25台、コンピュータ共同利用演習10室445台です。開館時間は、月～金曜日が8時30分～21時まで、土曜日は、9時～17時まで開館しており、名古屋女子大学高等学校・中学校生徒および付属幼稚園保護者の方々の利用も可能になりました。

学術情報センターで体感できることは、職員の一人ひとりが「親切」に迎えてくれることです。特に、書庫に入ると、書物独特の香りが体全体で受け止められ、言葉で表現できない感覚が味わえます。また、静寂に包まれた館内は、知識や能力を超えた、人としての「品」、品性・品格の高揚を可能にし、自分の新しい発想の発見と、可能性の拡大にと展開されます。さらには、現実を正しく見つめ、未来への「夢」と「希望」を益々大きく膨らませ、成功への道標、自分の自信につながります。学術情報センターには、利用する私た

ちにとって、多面的に対応可能なデータが山積みされており、足を運ぶだけで心を豊かにしてくれるエネルギーも存在します。

私たちは、多種多様化された現代社会の中で、教育領域および研究の目的・方法・内容などに対応できるよう、緻密にして全精力で立ち向っています。時の流れは今現在を飛翔し、50年、100年先の探求へとスピードを増し突き進んでいます。それと同時に、500年、1000年前の未解決なる点を線、線から面にすべく、研究がさらに細分化され進められていることも見逃してはなりません。そして、過去と未来を重ねて現代を考えると、私たち今現在の生活状況は、矛盾の多い瞬間に生きているのかも知れません。

喜びと苦しみが入り混じった情報社会で、人間味のある生き方をするためには、現実即した価値観・判断力・行動力などの構築が求められます。そのためにも、それぞれの分野に関するデータ数を多く収集して分析を行うこと。また、自分の生き方、考え方を基盤として、受信した情報が正しいかどうかの自己判断を適切かつ瞬時に行うことが、私たちの勉めといえます。そのためには、発信・受信者のお互いが、人間が人間らしく生きるための手段として情報を活用しなければなりません。

学術情報センターは、豊かな人間関係を基本として、心のキャッチボールは勿論のこと、『生きがいのネットワーク』で結ばれ、真理の追究が自ら実践できる場でもあります。明日の新しい自分を磨くためにも、学術情報センターに心身を預けてみてください。

◎ 目 次 ◎

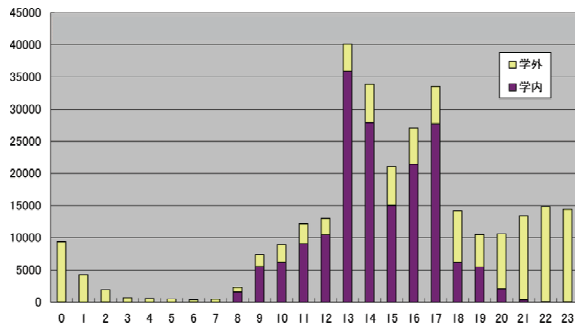
学術情報センターには品 夢 希望そして生きがいのネットワークがある	1
学術情報センターの教材作成支援	2
事例① 被服関係資格対策へのWebCTの導入	3
事例② WebCTの導入—これからの可能性	4
利用者の声～学術情報センターへの要望・意見から～	5・6
シラバス参考図書・選定図書について	6
テーマ別講習会について	7
ライブラリーのPCも是非ご利用ください	7
お知らせ	8

学術情報センターの教材作成支援

センターだより45・46号では、学術情報センターの授業支援の取り組みとして、WebCTについて紹介してきました。今回は、先生が授業で活用されている事例をご紹介します。

1. 本学におけるWebCTの利用状況

WebCTとはブリティッシュコロンビア大学（カナダ）のMurray Goldberg氏が開発した『コース管理システム』で、WebCT社（<http://www.webct.com/>）が開発・販売しています。現在81ヶ国2600を越える高等教育機関で利用されており、国内でも55機関、東海地区では名古屋大学を中心に8機関にて導入されています。平成17年度本学では41名の教員が69コース（講義）を開設しました。平成17年4月から平成18年1月末までの延べ利用者数約3万7千人のうち56%が学外から利用しています。時間別の利用数では21時から1時までの利用が多く、自宅での学習が行われていることがわかります。



平成17年11月の時間別参照数

2. WebCTをどのように活用するか

WebCTのようなITを活用したオンラインツールが提供する非同期型の学習環境と従来の同期型体面講義とを組み合わせる授業形態『ブレンディッド講義』と呼びます。WebCTを利用した場合、以下のような利点を期待できます。

(1) 学生との新しいチャンネルの構築

WebCT上に授業用のコースを開設することによって、新しい学生とのコミュニケーションチャンネルを構築することができます。授業に関する予定や連絡の提示、掲示板やメールでの質疑応答や授業に関するディスカッションの実施、テストやレポートの実施・回収、成績の確認など講義に必要な環境が整います。

(2) 主体的学習活動の支援

学生は事前に公開された講義資料で予習し、講義時の疑問や聞き漏らしは講義映像や掲示板で確認することができます。定期的に小テストを実施すれば学

生自身が理解度をチェックできるだけでなく、教員が講義時に理解度の低い内容についての説明を増やすなど講義運営に生かし、学習効果を高めることが期待できます。

(3) 資料作成の省力化

PowerPointにて講義資料を作成している場合、授業中のスライドショーだけではなく、事前に公開するオンラインや印刷用の資料に利用できます。またContentAuthorを利用すれば、録画した講義映像を復習用に利用できます。手書き機能を利用すれば、スライドに線や文字を書き込めるので、アニメーション等の資料作成時の手間を簡素化できます。



3. 学術情報センターの支援

学術情報センターでは、WebCTやContentAuthorの利用を支援するために今後とも様々な講習会や支援を実施していきます。



平成18年3月実施の講習会

事例① 被服関係資格対策へのWebCTの導入

石原 久代 (家政学部生活福祉学科教授)

◎ とにかく検定試験対策に

WebCT を使ってみよう！

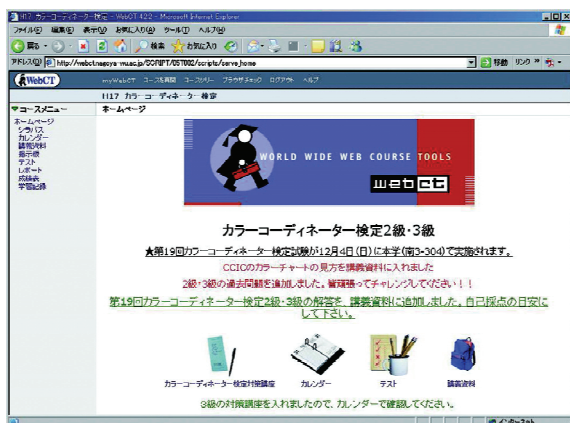
平成16年度、家政学部では文部科学省の現代GPに「e-家政学・双方向教育支援プログラム」と題して、教育コンテンツの作成と充実に焦点をあてたプログラムを申請した。家政学系の教育コンテンツは他の領域に比べて充実度が低いため意義深いと判断されたが、残念ながらシステムやコンテンツの利用、蓄積、共有などはすでに多くの大学で進められていることから、新たな提案にはならず、採択されなかった。

この申請内容にWebCTが入っていたことから、私もWebCTと格闘する羽目になってしまった。すでに本学にWebCTが導入されていたことは知っていたが、時間的な忙しさも手伝って、どのように使うか知らなかった。すでに授業で使用されている先生もあるが、使い始めてみると準備が必要で、今すぐ自分の担当科目に導入するには無理であった。そこで、学生の資格取得のサポートに導入することにした。

◎ 学生たちもよく頑張った！

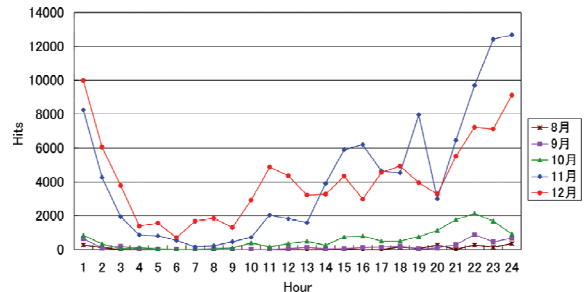
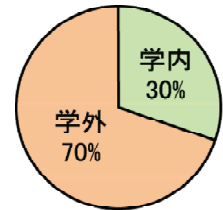
教員はバタバタだった

17年度は、手始めとしてカラーコーディネーター検定に導入することにした。例年授業時間外にテキストを中心とした対策講座を3級4回、2級5回程度行い、過去問題、例題はプリントにして学生に渡してきた。今年度も同様に対策講座は実施し、過去問題、例題はWebCTの「テスト」に入れ、さらに講座を進めていく過程で学生たちが要望する資料を「講義資料」のコンテンツモジュールに入れた。12月4日が試験日であり、導入からわずか4ヶ月、次々に出てくる要望に、休日自宅で資料を作り、学術情報センターの和田職員にかなり無理を言って入れ方を教授してもらった。問題数も加藤助手の力を借りて次々と増やしていった。その甲斐あってか生活環境学科の学生のほとんどが2級を受験し、今回の試験の合格率は全国平均49.4%のところ65%であった。この間、学生もよく頑張ったと思う。



下図にその間のカラーコーディネーター検定のWebCTの利用状況を示した。8月～12月までの接続延べ人数は2,175人、Hit数は321,560と非常に多く、学内からが30%、学外からが70%と学外が圧倒的に多かった。また学外からのアクセスの時間帯は21時から深夜2時位に集中しており、アルバイトなどを終えてから頑張って勉強した様子が窺える。また、月別にみると8月からアクセスを可能にしたが、11・12月が非常に多く、一夜付けというか短期集中の様相を呈していると言えなくもないが、ここは対策講座を受講した後に仕上げとして、WebCTでテストに取り組んだということにしておこう。

本学の大学案内には取得可能な資格やサポートしている資格が各学科・専攻ともに列挙されている。これらの資格サポートをより充実させるため、家政学部の被服関係教員は、手分けして繊維製品品質管理士、ファッションビジネス検定、パターンメイキング検定、教員採用試験対策などのコンテンツを現在作成中で、4月から公開できるように準備を進めている。



WebCT カラーコーディネーター検定時間別利用者数(学外)

◎ 今後の課題

今回のカラーコーディネーター検定受験者にWebCTに関するアンケートを実施した。ほとんどの学生が導入に好意的であった。また良かった点、良くなかった点も自由記述で挙げてもらった。良かった点として「いつでもどこでも手軽にできる」「自分のペースでできる」「多くの対策問題が用意されている」「採点がすぐできる」などが挙げられ、本来のe-Learningの利点があるまま現れた。逆に、良くなかった点としては、「1回の問題数(100問)が多い」「解説ページを載せて欲しい」などWeb内の構成に関する項目が挙げられ、これらは善処できる点であるが、「自宅にパソコンがない」「自宅でインターネットをできる環境がない」などの意見が6%あった。先の図に示したように、学外からの利用率が非常に多いことから考えると、e-Learningを充実させていく上での今後の大きな課題といえよう。

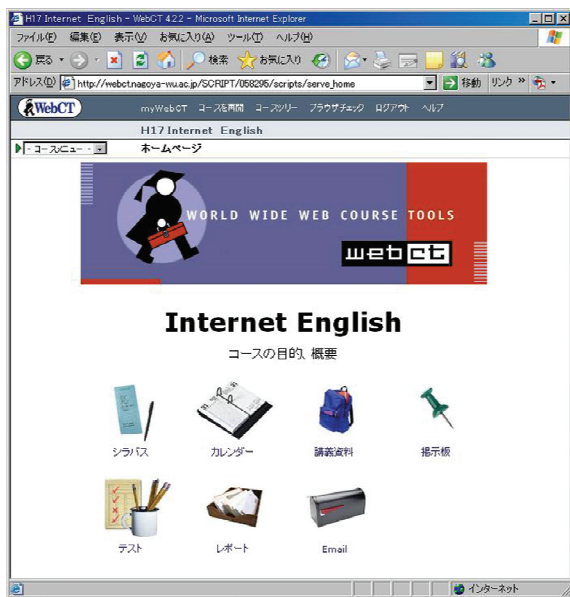
◆ 事例② WebCT の導入—これからの可能性 ◆

ダグラス・ジャレル (文学部国際言語表現学科教授)

平成 17 年度の「Internet English」という国際言語表現学科の専門科目を担当することになった時、WebCT が導入されたことを聞いて、早速使ってみようと思いました。16 年度まで短期大学部英語科で同様な科目を担当してきましたが、このような科目にはふさわしい教材は見つからず、毎年第一回目の授業までに 30 ページの冊子を印刷・製本し、学生一人ひとりに配布してきました。平成 17 年度には WebCT を利用し、学生がコンピュータから教材を直接ダウンロードできたので、冊子を作る手間が省けました。

ペーパー試験と違って、コンピュータ上の試験の場合、受ける時間が限定できるので、学生が一人ひとりが自分のペースで進み、となりのモニターを覗いてもそれぞれ進度が違って、自然にカンニングができない状況になります。ただしスコア管理が難しく、最後までそのやり方を覚えられませんでした。コンピュータ上の試験をするもうひとつの利点は、瞬間フィードバックのことなので、来年に向けてテスト機能をもっと有効に使えるように努力します。

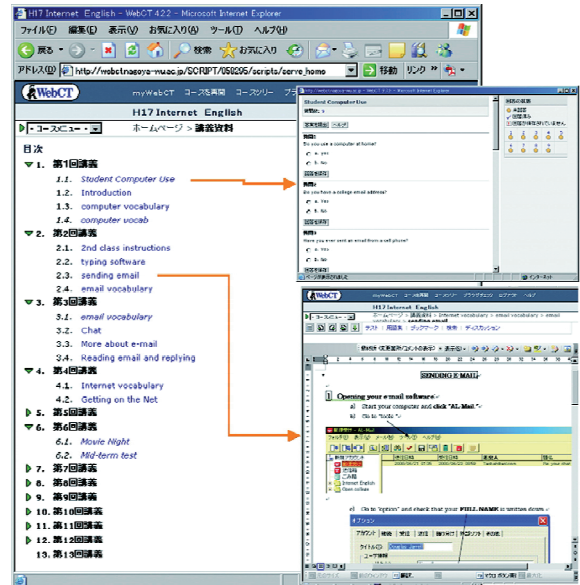
図 1



事前に作られた教材をアップロードするには、「講義資料」というツールを使います。ワード、エクセル、PowerPoint など基本ソフトで作成された教材をアップロードするだけで学生がアクセスできます。図 2 のように第 1 回講義から第 13 回講義まで週ごとに教材または学生の作成したレポートが WebCT に載せています。学生にとって WebCT の手順は簡単で、すぐ慣れます。

「テスト」と呼ばれるもう一つのツールは、選択形式を初め、5 種類の質問形式から選べる試験制作ソフトです。バラエティに富んだ試験が作れるだけに、どの試験形式にするのかは結構迷っていました。選択形式、整合形式、計算形式、短答形式、記述形式から選ぶことができ、採点は形式によってコンピュータに任せることになります。欠席した学生がいれば、受験時間を新たに設定し、再試験を認めることができます。

図 2



「カレンダー」という機能も使うようになりましたが、あまりアップロードを徹底していなかったため、学生はほとんど参考しないまま授業が終わっていました。教員はまめに授業の内容や課題をアップロードすると、欠席者は家からでも検索できるし、「知らなかった」という言い訳をもう受け付けなくても良くなるでしょう。WebCT は今までコンピュータ関係の授業科目にしか利用しなかったが、来年度から普通の講義科目にも利用したいと思います。「講義資料」、「レポート」、「カレンダー」、また WebCT 内の「メール」を整えれば、学生は迷うことはありません。多くの教員が使うようになると学生も定期的にチェックするようになり、本学の教育に活性化させることになると確信しています。

◆ 利用者の声 ～学術情報センターへの要望・意見から～ ◆

学術情報センターでは平成16年度より「利用者サービスプロジェクト」を立ち上げ、利用者の皆さんが満足できるサービスの提供を目指してきました。昨年度は「利用者アンケート」を実施し、その結果を受け、サービス時間、曜日の拡大、延長やパソコン、ソフトの増設など、具体的な改善を行いました。その後、今年度も利用者の方からのご意見を継続的に頂きサービスの向上に努めています。

今回はこの1年間にライブラリー、パソコン相談室へ寄せられた利用者の意見や質問、要望をご紹介します。

ライブラリー

*開館時間、曜日に関すること

「時間帯や貸出期間の延長は助かっています。」「朝早くから夜遅くまで空いているのですごく便利が良いです。」「時間延長されたので利用の機会が増えた。」など、今年度から午前8時30分から午後9時に拡大した開館時間や2週間に延長した貸出期間について、利便性が増したとの意見を多数頂きました。このことは、平成17年度の入館者数にも裏付けされており(表1)、拡大した時間帯にも多くの方が利用され、利用者サービスへの貢献が伺えます。反面、「土曜日の開館時間を延長して欲しい。」(天白)や、「日曜日も開館して欲しい。」という意見も多くありました。

土曜日の開館時間については、汐路は午前9時から午後5時までですが、天白については午後1時まで、としていましたが、これらの要望を受け、4月からは汐路同様天白も、土曜日の開館時間を午後5時までに延長します。日曜日の開館については、運用上の問題もありますので、利用状況や引き続いての皆さんからのご意見を参考にしながら、要望に添えるよう検討していきます。

(表1) 平成17年度ライブラリー入館者数

	汐路			天白			汐路・天白計		総計	昨年度比
	時間内 (～17時)	延長 (17-21時)	計	時間内 (～17時)	延長 (17-21時)	計	時間内 (～17時)	延長 (17-21時)		
4月	5,849	819	6,668	4,413	1,221	5,634	10,262	2,040	12,302	116%
5月	6,538	1,215	7,753	5,749	1,012	6,761	12,287	2,227	14,514	114%
6月	8,591	2,111	10,702	6,531	1,214	7,745	15,122	3,325	18,447	119%
7月	12,874	2,576	15,450	7,096	1,221	8,317	19,970	3,797	23,767	112%
8月	2,042	420	2,462	705	161	866	2,747	581	3,328	259%
9月	3,886	822	4,708	2,509	324	2,833	6,395	1,146	7,541	131%
前期計	39,780	7,963	47,743	27,003	5,153	32,156	66,783	13,116	79,899	119%
10月	7,995	1,378	9,373	4,729	534	5,263	12,724	1,912	14,636	122%
11月	7,424	1,483	8,907	4,837	768	5,605	12,261	2,251	14,512	113%
12月	5,320	967	6,287	3,802	652	4,454	9,122	1,619	10,741	110%
1月	8,795	1,505	10,300	4,697	786	5,483	13,492	2,291	15,783	127%
2月	2,372	582	2,954	1,128	215	1,343	3,500	797	4,297	182%
3月	1,371	490	1,861	555	84	639	1,926	574	2,500	113%
後期計	33,277	6,405	39,682	19,748	3,039	22,787	53,025	9,444	62,469	130%
総計	73,057	14,368	87,425	46,751	8,192	54,943	119,808	22,560	142,368	124%

(単位：人、*昨年度比：昨年度入館者数に対する増減率)

*資料に関すること

ライブラリーでは、昨年度のアンケートでの要望を受け、平成17年度は積極的に学習用の資料の充実に努めました。また、館内にリクエストボックスを設け、利用者の皆さんが気軽に希望資料のリクエストを出せる環境を作りました。リクエストボックスには年間100件近くの希望があり、それらの資料の購入も行っています。この結果、「昨年度に比べて資料が充実した。」「新しい図書をすぐに入れてくれるのでありがたい。」という評価や感想を頂きましたが、まだ一部に「調べたい資料が揃っていない。」などの意見もありました。寄せられたご意見をもとに、関

連資料の購入を行うことでこれらの意見にお応えしていますが、資料のリクエストの制度を知らない人も多いようです。ライブラリーでは汐路、天白各センターにリクエストボックスを設置しています。具体的な書名が分からない場合は、××に関する資料、といった書き方でも結構です。大いに活用してください。

*その他ライブラリーへの要望・質問

上記以外に、「図書の配架場所が分かりにくい。」「DVDやCDは借りられないのですか。」「事典類などの貸し出しをして欲しい。」といった質問や要望もありました。配架場所の案内については、**蔵書目録の書誌詳細画面から、配架マップ表示にリンクするようにしました。**DVDやCDなどの視聴覚資料については、著作権法により館内での利用しかできません。また、辞書、事典など参考図書類は、調査資料として、常時館内に置いておき全ての利用者に利用してもらえるように、との意味から館内閲覧になっていますのでご理解ください。

パソコン相談室、演習室

*自習スペースに関すること

パソコン演習室については、「自習スペースを増やして欲しい。」という要望が相変わらず目立ちました。昨年度のアナウンスでも多くの要望がありましたが、学内の限られたスペースで部屋を増やすことは出来ない状況もあり、**汐路、天白各ライブラリーに新たにマルチメディアコーナーを設け自習用に利用できるデスクトップパソコンを増設しました。**また、従来の貸し出しノートパソコンに加え、これらの**機器の利用状況をリアルタイムに確認できる「ライブラリーPC空き状況」が学術情報センターのホームページにあります。**ライブラリーのパソコンについては、試験前などの時期は利用が集中していますが、通常は余裕がありますので空き状況を確認のうえ、有効に活用して下さい。

*利用できるソフトに関すること

「CADなどが使えるパソコンをもっと増やして欲しい。」など、ソフト増設に関する要望が何件かありました。学術情報センターでは昨年度のアナウンスでの要望を受け、**CAD、EXCEL 栄養君、Flash のソフトが使えるパソコンを最大限増設**しましたので充分利用してもらえると感じていましたが、まだ周知されていない人もいます。これらのご意見から、より一層の広報として、**各演習室と学術情報センターの掲示板に各室に導入してあるソフトの一覧を掲示**して案内を強化しました。演習室の使用状況と合わせて利用可能場所の確認をしてください。

以上、この1年ライブラリー、パソコン相談室、演習室に寄せられたご意見の代表的なものをご紹介しましたが、これらのほかにライブラリー、演習室、自習室を共通した意見として、「静かな環境で落ち着いて集中できる場所として気に入っているが、時折、私語や飲食など、マナーの悪い人がいて困る。」などの意見もありました。共に自学自習をする共有スペースですので、他の利用者への配慮も忘れないでいただきたいと思います。

今年で2年目を終える「利用者サービスプロジェクト」は、皆さんのご意見を通して少しずつサービス向上の成果を得ているように感じます。意見の中には、改善の要望以外にも、「静かな雰囲気で大好きな場所です。」とか「スタッフの対応がよく親切で利用しやすい。」など、非常に励みになる感想もいただきました。学術情報センターでは、今後も利用者の皆さんの声を反映したより良い環境作りに努めていきますので、引き続きご意見や要望をお寄せ下さるようお待ちしております。

◆ シラバス参考図書・選定図書について ◆

ライブラリーではシラバス参考書に掲載されている参考図書を「シラバス参考図書」として、また教科担当の先生から推薦していただいた、授業の参考になる図書を「選定図書」として所蔵しています。シラバス参考図書・選定図書ともに、一覧表は学術情報センターホームページからアクセスでき、また汐路・天白ライブラリーサービスの掲示板にも掲示しています。(http://lsic.nagoya-wu.ac.jp/SenteiIndex.shtml)

一覧表は大学(学部別)・短大・大学院別に全学共通科目、学部共通科目、学科専門科目別に分類されており、ホームページ上ではLINKをクリックしてOPACの詳細画面を表示すると、現在の状態の確認(貸出中かどうか)や予約ができるようになっています。レポートの作成に役立つだけでなく、授業をより深く理解するためにぜひ活用してください。



テーマ別講習会について

ライブラリーでは、提供しているサービスを「知ってもらう」「有効に活用してもらう」ことを目的として、テーマ別に講習会を実施しています。

それぞれの講習会については事前にライブラリーからお知らせしますので、ここでは、こういった講習会があるのかを簡単にご紹介します。

● データベース説明会

全利用者対象（説明会により異なる）、1 時間程度

ライブラリーで提供しているデータベースを、個別に紹介します。特徴や基本的な使い方などを、講義と演習を交えて説明します。

申し込みが必要な場合がありますので、ライブラリーからのお知らせを確認してください。

表：テーマ別講習会年間計画

4月	ライブラリー利用セミナー	ゼミ指導
5月	海外文献データベース講習会 (おもに教職員・院生対象)	
6月		
7月		
8月	夏期休業	
9月	国内文献データベース講習会 (おもにゼミ生・学生対象)	
10月		
11月		
12月		
1月	春期休業	
2月		
3月		

● ゼミ指導

ゼミ生・院生対象、1 時間程度

論文作成のためのライブラリー活用法を説明します。ゼミの特色に合わせ内容を構成しますので、要望があれば申込時にお知らせください。

申込は随時受け付けています。ゼミ単位で、指導教官を通じて申し込んでください。

● ライブラリー利用セミナー

新入生対象、1 時間程度

初めてライブラリーを使う方のための講習会です。基本的な資料の探し方の説明と、ライブラリー館内ツアーを行います。今後ライブラリーを利用するために必要となる内容ですので、必ず出席してください。

クラス毎に日程が決まっていますが、指定の日都合がつかない場合は、受講日の振り替えができます。

こうした講習会以外でも、「データベースの使い方を教えて欲しい」「○○という内容の資料を調べるにはどんな方法があるか知りたい」といった質問は、随時ライブラリーカウンターで受け付けています。簡単な利用指導を行うこともできますので、興味のある方はカウンターへ相談してください。

今後も、気軽に参加してもらえるような講習会を企画する予定です。皆さんがライブラリーを有効に活用するお手伝いができれば幸いです。

ライブラリーの PC も是非ご利用ください

ライブラリーには、下記三種類の PC が設置されています。

1. **OPAC 端末**：検索／電子ジャーナル閲覧用（メールや Office は不可）。
2. **ノート PC**：閲覧室内で無線 LAN にてインターネットが可能（メールや Office も可能）。
3. **マルチメディア端末**：館内のソフトを自由にインストールできる。メールや Office も可能。多言語機能搭載。

2 と 3 はパソコン演習室／自習室の代わりとしても利用できますが、ライブラリーならではの特色もあります。例えば、2 は館内の多くの場所に自由に移動して利用でき、蔵書を利用した論文作成に非常に便利です。また、3 はカーソルを合わせるだけで引ける電子辞書や多言語 WINDOWS 等を搭載しており、外国語学習にも便利です。これらライブラリーの PC 空き状況は、学術情報センターのホームページから確認できます。天白は部屋数の都合、パソコン自習室が満員になりやすいので、パソコン自習室内にこの空き状況を確認できる端末を設置しています。

お知らせ

■天白ライブラリーの土曜日の開館時間の変更

皆さんからの開館時間延長の要望を受け、天白ライブラリーの土曜日の開館時間を、汐路ライブラリーの開館時間と同様に17:00まで延長することになりました。

	H17年度まで	H18年度から
土曜日開館時間	9:00 - 13:00	9:00 - 17:00

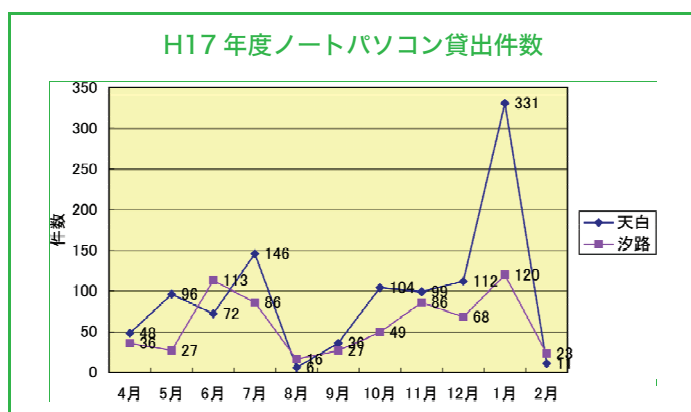
*開館時間延長に伴い、土曜日の一夜貸しの受付は16:00からになります。

■新規データベースの導入

文献検索用のデータベースを新たに導入しました。利用の方法については、講習会を随時開催しますので、ぜひ参加してください。また、カウンターでも質問を受付けていますので、気軽にお問合せください。

EBSCOhost Health Source/Consumer Edition	健康・医学関連分野の外国雑誌記事・論文が検索でき、一部全文も見られます。また、健康関連のパンフレットも多数収録しています。収録誌数約300（うち全文参照可能約290）誌。
EBSCOhost MEDLINE	医学関連分野の外国雑誌記事・論文が検索できます。米国をはじめ70カ国以上で刊行された雑誌を収録しており、医学分野で世界最大のデータベースです。収録誌数約4,800誌。
EBSCOhost ERIC	教育学関連分野の外国雑誌記事・論文、政府報告、会議録、研究課題、カリキュラムガイドなどが検索できます。収録誌数約1,260誌。
EBSCOhost Child Development & Adolescent Studies	子供の発達や育成に関する外国雑誌記事・論文、テクニカルレポート、書籍情報のほか、生物医学や社会科学分野の学位論文などが検索できます。レコード数約177,000件。
日経BP 記事検索サービス 女子大・短大版	日経BP社が発行する雑誌の記事や、就活情報、パソコン講座などをオンラインで利用できます。雑誌数18（1誌はコラムのみ）誌。

■貸出用ノートパソコンの増設



昨年度の天白ライブラリーの貸出件数は、図のように汐路を上回る結果となり、利用が重なった時はお断りしたこともありましたが、この結果を受けて、学術情報センターでは、天白ライブラリーのノートパソコンを2台増設することになりました。今年度から、館内貸出用のノートパソコンは12台になりますので、貸出が多い場合にも対応が出来るようになります。また、この2台は教員用の館外貸出にも対応しています。今までは、汐路から取寄せて貸出していましたが、より迅速に対応が可能になります。授業やレポート作成にぜひご活用ください。

名古屋女子大学 学術情報センターだより 第47号 発行日：平成18年4月20日

発行：名古屋女子大学学術情報センター
〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

●ライブラリーサービス TEL (052) 852-9768
●システムサービス TEL (052) 852-1120